

測定手順 (土壌、玄米の例)

バックグラウンド値を測定し、平均値を出して安定的な値を算出します。

1 バックグラウンド測定

専用容器に水(1ℓ)を入れ
1分間測定×5回繰り返し、平均値($\mu\text{Sv/h}$)を出す

▼
[A] バックグラウンドの値

2 対象物測定

専用容器によく攪拌した対象物(1ℓ)を入れ、
1分間測定×5回繰り返し、平均値($\mu\text{Sv/h}$)を出す

▼
[B] 対象物の値

3 放射能の目安

[B] - [A]

の指示値の差を計算する。測定対象試料に対応した付属の「参考：ベクレル値への変換事例」から、目安となる単位質量あたりの放射能を求める。

※1

参考 1	バックグラウンド 0.1 $\mu\text{Sv/h}$ の場合	▶土の検出限界は約100Bq/kg ▶玄米の検出限界は約200Bq/kg
---------	--------------------------------------	---

参考 2	バックグラウンド 0.02 $\mu\text{Sv/h}$ ^{※2} の場合	▶土の検出限界は約75Bq/kg ▶玄米の検出限界は約100Bq/kg
---------	---	--

※1 参考1、参考2で示すベクレルは参考値です。※2 適切な速いにより実現可能です。

注1：この方法は当社独自の方式であり、厚生労働省などのガイドラインに沿ったものではありませんので、結果を厚生労働省などのガイドラインによる測定結果としてご使用いただくことはできません。正確な放射能を求めるためには検査機関による精密分析を行なってください。

注2：この方法は、PA-1000とPA-Kの組み合わせで使用してください。

注3：室内などバックグラウンドが十分に低い場所(0.1 $\mu\text{Sv/h}$ 以下)で測定をしてください。

注4：測定対象物はできるだけ細かく刻み、すき間なくポウルに入れてください。

注5：ポウルの中にすき間なく入れることができない物、例えば大きな石や様々な大きさが混ざった物は測定することができません。

注6：対象物は、よく攪拌して容器内に入れてください。